

支部だより

2018/12/30 No. 22 東京支部事務局

2019 JNP大撮影会・本部理事会で承認

東京支部が担当で計画している2019 JNP大撮影会が本部承認され、いよいよ実施に移されることになりました。

この大撮影会は、JNP本部として年2回（春・秋）開催されているもので、全国から会員メンバーが集まる撮影会です。

2019年は、「JNP夏の撮影会」と称し、東京支部が担当で開催する大撮影会であります。企画は、半年以上前から、役員を中心に進めて来たもので、その概要は、2019年7月27日（土）～29日（月）河口湖畔に宿泊先を取り、「花のある風景」をテーマに、河口湖「早朝の富士」、山中湖「花の都公園」、富士見高原リゾート「花の里」、北杜市・明野「ひまわり」を撮影場所とした撮影会です。

この大撮影会は、JNP本部としての大きなイベントであり、また、東京支部としても各支部、支部以外の多くの会員メンバーとの交流の場でもあり、運営は大変ですがとても有意義なイベントと思います。

現在、出席の確認を行っています。これは、来年早々から始まる実施準備と皆さんが参加される枠を取るためです。すでに数名の方が出席・協力の連絡が入っています。

ぜひ、大撮影会を通し、東京支部ここにありと言うPRを含め、絶対に成功させましょう。ご協力のほど、よろしく願います。（文：戸張眞）

2018秋の撮影会報告

2018年10月7-7日の2泊3日、「蓼科の秋を撮る」をテーマに15名のメンバーが参加して2018年東京支部撮影会が開催されました。

今回の撮影会は、紀田さんから紹介された「蓼科を知り尽くした写真家・久野氏」によるガイドと撮影指導により行われました。

初日は、自由参加による早朝撮影、参加者は午前4時

に美ヶ原高原駐車場に集合・・・真っ暗な中、井上さん、須加尾さん、私達（戸張）夫婦の4名は待ち合わせ場所に到着確認できたが。高橋さん、陶山さんの車が見えない。高橋さんとは、連絡を取り合っていたが、どこにいるのか？駐車場にいるのか？違う場所にいるのか？真っ暗の中約10分もやり取りをした結果、何とたった15mほど先の駐車場隅にいたことがわかって、大笑い！！陶山さんとも連絡を取り合ったが、どうやら新しく購入した車とカーナビのため、指定の待ち合わせ場所とは違う場所に行ってしまったらしい。結局、陶山さんとは会えずに、撮影を開始。

朝日射す高原、輝く紅葉と山並み・・・約3時間早朝撮影を楽しみ、撮影会宿泊先の「清明荘」に向けて美ヶ原高原を出発。

午前11時半、清明荘に到着。車で集まる方、電車・高速バスで集まる方などいろいろだったが、全員が揃ったので、これから始まる撮影会のオリエンテーションでスタートをした。

3日間の撮影行程は、以下の通り。

- 第1日目（10月7日）・・・白樺湖～女神湖の間（ツタウルシ）
- 第2日目（10月8日）・・・大河原峠（雲海・朝日）～長和不動滝（滝）～巢栗溪谷（溪流・滝・紅葉）～富士見台（夕景）
- 第3日目（10月9日）・・・白駒池（紅葉・水草・朝日）～八千穂高原（白樺・紅葉）



一日目、撮影会のスタートは、まずは、白樺湖～女神湖の間にある杉の森の中へ。そびえる杉の木に絡まる色とりどりの「ツタウルシ」とも綺麗だ。しかし、どう撮ったら良いものか？悩みながらの撮影。

2日目の早朝撮影は、大河原峠・・・雲海と紅葉、朝日・・・とても素晴らしい景色に出会った。

3日目、白駒池の早朝、朝食のおにぎりを持ち、白駒池までの山道（久しぶりに行ったが、とても整備され歩き易くなっていた）を歩き、各自撮影ポイントへ。その後、八穂高原に移動して、白樺の中に点在する紅葉を撮る。笹に覆われた中を藪漕ぎしながら、道に迷いながらの撮影だった。苦労はしたものの結果は？

2泊3日の撮影会は、久野氏の積極的な案内のお陰で、多くのスポットでの撮影を楽しむことが出来た。また、今までは各自の車での移動であったが、今回初めて撮影途中の移動を久野氏が用意した運転手付の車で行った。皆うとうとしながら次の撮影地に移動できたので、疲労も少なく撮影に集中できた。他支部と同様、東京支部も高齢化が進む中、いつまでも撮影を楽しむためには、撮影会の運営も工夫を加え変えていく必要があると改めて感じた次第。

久野さん、ありがとうございました。

(文・写真：戸張)

東京支部第16回作品展報告

11月16日から22日にかけて、JNP東京支部第16回作品展を、富士フォトギャラリーSPACE 1にて開催いたしました。支部の皆様のご広報活動、風景写真誌、フォトコン誌での紹介、来場者の口コミなどのお蔭でしょうか、大変多数の方々に来場いただきました。累計来場者は1040人（会場での実カウント）を超えました。

(参考：昨年の15周年記念作品展では860人弱)。

来場の方々の中には「落ち着いた色合いでとても良か



った」とつぶやいて行かれる方もおられ、作品展としての評価は総じて良かったように思われます。神奈川支部、千葉支部、埼玉支部、群馬支部からも多数の方々においでいただき、また、川隅功先生、福田健太郎先生、菊池哲男先生、山口高志先生、山本一先生もご来場いただき、感想、アドバイスをいただきました。また、作品

展終了後、山口先生、山本先生もご参加いただき、打ち上げ、反省会を行いました。

今回配布した図録(写真入り目録)は大変好評で、何枚も持ち帰る方がおられました。





皆様のお蔭で大変評判の良い作品展となりましたことを感謝いたします。(文・写真：作品展担当 井上武夫)

盛り上がる山口先生による定例研究会

2018年12月9日(日)の定例研究会で、2018年の4回にわたる定例研究会が終了しました。引き続き、2019年定例研究会が山口先生のご指導のもとスタートします。

〈2018年定例研究会〉

- 第1回定例研究会：2018年2月24日(土)
- 第2回定例研究会：2018年6月9日(土)
- 第3回定例研究会：2018年8月25日(土)
- 第4回定例研究会：2018年12月9日(日)

東京支部・定例研究会は、今年から写真家・山口先生の指導による講評を中心に行っているもので、毎回25-30名が出席(ここ1、2年の出席率は90%以上)する中で行われています。講評会には、各自作品5点を持ち寄り(総提出作品数は120-140点ほど)撮影者と先生とのやり取りの中での講評を実施。

山口先生も4回の講評で1人7-8分というせわしなさにも慣れ、さらに毎回の定例研究会終了後の懇親会を通し先生とメンバーとの距離も近くなっていることから、講評は褒めながらも厳しいご指摘も増えてきている。

講評は、まず撮影者から撮影の際意識した点を話してもらい、その後1点毎に講評が行われ、最後に5点中から「金」「銀」2点を決めてもらうという方法が採られる。そして、全員の講評終了後に「金」となった作品をすべて張り出し、先生から今回の評価視点を話していただいた上で、中から5~7点を選んでいただき、出席者の万雷の拍手の中、この選ばれた方々に作品をお返している。

今回の選定視点は、「誰もが撮らない、気づかなかったところを狙った作品」。

第4回定例研究会終了後は、先生を囲んで久しぶりに

中華料理「桃杏楼」で忘年会。時の経つのも忘れ、写真談義、会の運営、その他に花が咲き、お酒も進み、楽しいひと時を過ごしました。

なお、2019年も定例研究会とその後続けて懇親会を実施する中で、楽しく作品づくりに取り組み、各自の、また支部としてのレベルアップに繋げて行きたいと考えています。

山口先生、来年もよろしくお祈りします。

(文：研究会担当：太田桃子、戸張真)

篠原さんによる特別研究会報告

今年度の特別研究会が以下の要領で開催された。

日時：2018年7月7日(土) 14:30~17:00

会場：中小企業会館8F・A会議室

講師：篠原さん(東京支部メンバー・プロ写真家)

参加メンバー数：12名(会員8名、会員外4名)



今回は、篠原さんを講師にご自身の作品紹介を行いながら「プロ写真家としての個展の開催」「フォトショップによる作品としての仕上げ」をテーマに進められた。

篠原さんは、東京支部唯一のプロ写真家。依頼先の要望に合わせ、作品をアレンジする仕事と平行し、「つつじ」「小さな動物」をテーマに作品を発表している。

参加者の感想を拾ったところ、篠原さんのプロ写真家としての仕事、個展を開催する時のプロとしてのチェックポイント、そしてフォトショップによる簡単な作品の仕上げ方など大好評。次は、是非、PC持参のフォトショップによる作品の仕上げ方についてぜひセミナーを開催して欲しいという要望が多かった。

特別研究会終了後は、場を「ニュートーキョウ数寄屋

橋店（ビールの美味しいお店）」に移し、篠原さんご婚約祝いを兼ねて、懇親会が行われた。懇親会の中では、本日の講義の感想、意見交換、撮影地情報など熱の入った写真談義で時間も忘れて楽しいひと時を過ごした。

篠原さん・皆さんからの要望も多く、是非、一度特別研究会「PC持参のフォトショップによる作品の仕上げ方」の企画をさせて下さい。もちろん、ギャラ（すずめの涙！）ですが、用意しますよ。（文：戸張 真）

“私のお気に入り撮影スポット” 2018 年第 4 回

私の撮影パフォーマンスは同じ撮り場を何度も通うというものなので、目新しい場所のご紹介が出来ず心苦しいです。



栃木県矢板市にあるスッカシヅメは、光芒が美しい滝で有名ですが、冬の氷瀑も見逃せません。冬のルートは山の駅「たかはら」から歩きます。所要時間はおよそ往復5時間、距離は約8kmでしょうか。写真撮りはスノーシューハイキングとは異なり、機材があります。私の内容はNikonD5、24-70mm、魚眼、三脚、飲料水、昼食そして撮り場で着用するダウンジャケット、約8kgです。シーズン2～4回のペースでこの5年間毎年通ってきましたが、帰途最後の1km手前地点では生きているのさえ嫌になるほどの疲労困憊で、最近ではこの地点で必ず膝の痙攣に悶絶する有り様。いつまで通えるのか、それでも通いたいカメラ女子！ そう思わせるのが、この冬景色なのです。

ところが、です！ 去年は腰痛の不安もあり、古いミラーレス機と三脚無しで出掛けてみました。まるで公園の散歩レベルの快適さに驚きです。重量からの解放は、所要時間の余裕も出来、これまで気づけなかった冬の小さな出会いの連続に唯々感激です。

お正月の慌ただしさが過ぎると、氷瀑達の成長進捗度

が気になり始めます。今季も軽量カメラで、冬の聖霊達の祭典に会いに出掛けよう！と思うのです。注意としては、平日はルートが雪で消えてしまう箇所が多々あります。ルートだと思って歩いていた道が川底の谷間だったことも・・・焦。土曜日に出来た踏み跡を頼りに、日曜日の早めに出発して、お昼には帰途に就くのが得策です。時間と明るさのゆとりは、安全の命綱です。そして帰途の国道ルート挑戦は絶対にやめましょう。行きに通るツルツルに凍った斜面が一カ所あります。帰途そこを避けようと安全な国道ルートを試みたのですがハンパなく死闘で、あやうく家族に捜索願を出されるどころでした。そして、私のような単独行動はお勧めしません。

（文・写真：果音）

編集後記

わたしは数年来、大半のシルバー世代と同じく、仕事は楽しみの範囲内に限り、24時間ほとんどすべてを自分のためだけに使って暮らしてきました。ところが、昨年春に息子が海外赴任していくもたまたまうちに息子夫婦は離婚、秋には孫がわたしのところにやってきました。孫は当時まだ9ヶ月の可愛い盛りで社会人の娘とわたしと老猫の、悪く言えば沈滞した暮らしはにわかに活気づきましたが、深夜出発して白む空、昇る朝日、草原や川面を舞う朝霧を撮るわけにはいきません。東京支部の事務局の仕事だけを頼りにかろうじて写真にしがみついているだけという有様でといた。事務局担当でほんとうにラッキーでした。そうでなかったら写真はもう止めていたかも。

一年たって各地の紅葉のニュースが流れる頃、叔母の遺した白馬の家の関係から現地へ行く必要ができたため、久方ぶりにカメラを車に積んで中央道に入りました。走り慣れた道を行くうちにかつての気分がよみがえり、安曇野で長野道から出るや、そこらの道祖神を撮ったり、国道の西にそびえる北アルプスを眺めてなかなか覚えぬ山の名前を思い出そうとしてみたり・・・そもそもの目的をほとんど忘れるほどでした。

写真を撮るのはほんとに楽しい！

下手の横好き、たいへん結構！

以来、わたしは近場でも短時間でも撮りにいくことにしました。条件が厳しくなった分、天候や場所など厳しく考えないといけません、わたしの写真は以前からマンネリ化していて成果も低迷していたのだから活を入れる良い機会と考えるべき、「時間が無い」は言っちゃいけない、と思っています。

（文：泉屋）